

本 会 報

学会だより

◇ 常任幹事会

開催日：平成 18 年 9 月 2 日（土）

場所：東京大学農学部

出席者：谷坂隆俊，長戸康郎，大澤良，奥本裕，平田豊，北野英己，佐々英徳，小松田隆夫，江面浩，中園幹生，寺地徹，阿部利徳，加藤鎌司，佐藤裕，長谷川博，勝田真澄，吉村淳，熊丸敏博

各常任幹事から業務の経過報告を行った後，学会参加申し込みで UMIN (University Hospital medical information network) システムを導入する件，学会賞の受賞者対象者の増員，Breeding Science および育種学研究的のオンライン投稿システム導入および学会賞の受賞対象者増員に伴う内規の改定案などを討議した。

◇ 幹事会

開催日時：平成 18 年 9 月 21 日

会場：愛媛大学 大会会館 3 階

出席者：会長 谷坂隆俊，副会長 長戸康郎，大澤良，奥本裕，中園幹生，寺地徹，勝田真澄，小松田隆夫，佐藤光，熊丸敏博，佐々英徳，渡辺信義，石本政男，佐藤裕，佐野芳雄，三上哲夫，阿部利徳，西尾剛，星野次汪，大川安信，岩田洋佳，佐々木卓治，矢野昌裕，房相佑，阿部知子，木庭卓人，平田豊，丸橋亘，野村和成，野々村賢一，北野英己，掛田克行，小島昭夫，長谷川博，山田利昭，辻本壽，佐藤和広，村田達郎，藪谷勤（39 名）
委任状：原田竹雄，森宏一，江面浩，間野吉郎，片山義博，古田喜彦，石井尊生，加藤鎌司，山川理，江川宜信（10 名）

1. 各常任幹事経過報告

A) 庶務，GMO 関連

幹事の交代 高木洋子氏の選出地区（沖縄）からの転出に伴い，江川宜信氏に委嘱。会員数は 2006 年 9 月現在 2328 名。中西印刷への会員情報の提供依頼が 3 件。協賛および推薦がそれぞれ 1 件ずつ。学会賞選考委員の西尾，矢野，両氏が学会賞候補として推薦されたことに伴う三上，辻本両氏との交代，が報告された。GMO 関連では 7 月に農林水産省技術会議事務局より本学会に対して，「遺伝子組換え作物に理解があり，遺伝子組換えの正しい情報について相談にのれる地域の研究者」の候補者リスト作成への協力依頼があった。この要請に応えるため各地域幹事より推薦された研究者のリストを技術会議宛に提出したことが紹介された。

B) 集会

前大会の開催報告，今大会における口頭発表数および

ポスター発表数について報告された。また，次大会では学会参加に学生割引を導入する予定であることが紹介された。

C) 農学会・科研費

平成 18 年度科研費研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の交付金額が 350 万円（昨年度は 210 万円）であったことが報告された。同じく「研究成果公開発表（B）」（件名）公開シンポジウム「地方の時代—地域ブランドをつくる品種改良」は不採択であったことが報告された。

D) 会計

2006 年度日本育種学会中間決算について，今年度より新しく増えた印税収入が植物育種学辞典の印税収入であることが報告された。また，従来学会負担であった学会誌の別刷り送料に関して，送料を著者負担に変更したことが報告された。

E) 英文誌編集

投稿状況に関して，しばらく続いていた投稿数の増加傾向がやや横ばいになったことが報告された。また，投稿数に対する掲載不可の分の割合は二十数%であることが紹介された。

F) 和文誌編集

編集状況が報告されるとともに，投稿数が少ないため和文誌への積極的な投稿が呼びかけられた。

G) ホームページ

会員のホームページの訪問回数を増やすため，今後は新着情報掲載時に会員にメールを配信することが報告された。また，当学会のホームページの体裁改善に関して，経費をかけない方策を検討中であることが紹介された。

H) 国際・渉外

千葉大学木庭氏の JABEE (財団法人農学会 技術者推進委員会) 審査員資格取得のための講習会への参加が報告された。また，2008 年に韓国済州島で開催される国際作物学会への参画を目指して，国際作物学会の日本国側事務局となっている日本作物学会との連携を検討中であることが紹介された。

I) 学会間連携

現在，いくつかの案を検討中であることが報告された。

J) 地域

北海道地域では今年度より喜多村会長の発案で懇親会を復活させたこと，東北地域では約 10 年ぶり東北育種研究集会を復活させたこと，関東地域は計画中的であること，中部地域は東海ブロックが古田先生を中心に，北陸ブロックが村井氏を中心に活動していること，近畿地区では 11 月に作物学会近畿支部との合同例会を予定していること。九州地域では九州東海大学で集会を計画中的であること，などが報告された。

2. 議事

(1) 平成 18 年度日本育種学会賞について

学会賞選考委員会（長戸康郎委員長，北野英巳，佐野芳雄，辻本壽，三上哲夫，山田利昭）および幹事会の議を経て次の 2 件を選定した。

◎矢野昌裕（独立行政法人農業生物資源研究所）：イネの量的形質に関する分子遺伝学的研究

◎福岡県ビール大麦育種グループ（代表：古庄雅彦）「アサカゴールド」，「ミハルゴールド」，「ほうしゅん」などのビール大麦の高醸造適性・耐病性，安定多収品種の育成

補足意見：受賞研究の題目を，ビール大麦の高醸造適性・耐病性・安定多収性品種「アサカゴールド」，「ミハルゴールド」，「ほうしゅん」の育成，に訂正すること。

(2) 平成 18 年度学日本育種学会奨励賞について

学会賞選考委員会および幹事会の議を経て次の 2 件を選定した。

◎野々村賢一（国立遺伝学研究所）「イネ生殖細胞形成過程を制御する遺伝子群の単離と機能解析」

◎新倉聡（株）トーホク「アブラナ科野菜における生殖形質の遺伝学的研究とその育種への展開」

(3) 平成 19 年度秋季大会（第 112 回講演会・第 50 回シンポジウム）について

同大会が山形大で開催されることが提案され，承認された。

(4) オンライン投稿・査読システムの導入について

英文誌編集担当の勝田氏より，編集委員会においてオンライン投稿・査読システムの導入を検討してきた経緯および導入に伴う利点が提示された。利点としては，投稿数の増加を促すことにより雑誌としての質的向上の一助となる，論文の審査状況がオープンになる，原稿の受け渡しに伴う事務作業，郵送料を軽減し掲載までの時間短縮にも繋がることである。オンライン化を導入する際，その候補としては以下の 2 通りの場合がある。すなわち，海外出版社（Blackwell, Springer 等）に投稿・査読・印刷を委託する場合，もしくは J-STAGE のシステムで投稿・査読管理を行い，完成原稿の印刷は従来どおり中西印刷に依頼する場合である。前者は投稿・査読・印刷すべてを含む一体型システムであり，外国出版社によって出版されることによって学会誌の海外での知名度，サーキュレーションの向上に繋がると期待される。一方，後者は投稿・査読のみ J-STAGE を利用し印刷は中西印刷となるので，現状の編集体制を維持した形でのオンライン化導入が可能である。このため，雑誌の表紙，体裁，審査・編集方針に学会の意思が直接反映される。最後に，今回の幹事会での承認があれば，平成 20 年度よりの運用開始に向けて具体的な作業に着手することが紹介された。まず，オンライン投稿・査読システムの導入について審議し，賛成多数で承認された。

つぎに，導入するシステムに関して意見交換を行った。学会誌は商業誌とは異なり，学会員を研究者として育成する教育的な側面が大きい。外国出版社に印刷を含めて委託すれば商業誌となり，学会誌としての目的は果たせなくなる。また，和文誌も含めてオンライン化することを考えれば，日本語が使えない外国出版社のシステムは使えない。出版社の寡占化が進行することは雑誌購入費の高騰の原因であり大学にとっては死活問題である。J-STAGE では発行された論文であれば自由にオンライン上で閲覧できるが，海外出版社では一定期間は自由な閲覧が制限されることになる。これら意見に代表されるように，J-STAGE のシステムを支持する意見が多勢を占め，外国出版社が提供するシステムを支持する意見は皆無であった。今回の幹事会ではシステムに関して結論を出さずに編集委員会に幹事会の意見を伝えることとした。

(5) 学会賞および奨励賞の受賞対象者の増員について

学会賞および奨励賞の受賞対象件数をそれぞれ一件ずつ増やす，という提案がなされた。審議の結果，賛成多数で承認された。ただし，学術的業績および技術的業績の割り振りは従来どおり学会賞選考委員会に一任することとした。また，今後は論文賞の増員や賞の創設に関しても検討していくこと，さらに学会賞の推薦を学会賞選考委員会が行うことの可否についても時間をかけて検討していくこととした。

(6) 表彰規定に関する内規事項の改正

(5) の学会賞受賞対象の件数の増員に該当する内規事項の変更案が提案された。訂正案の E. 3) の「ただし，学会賞については，学術的業績および技術的業績がそれぞれ少なくとも 1 件含まれることとする。」の部分については該当する業績がない場合でも 2 件選ばなければならないことになる，との指摘があった。指摘の点も含めて審議の結果，原案が承認された。

E. 表彰規定に関する事項

改正前 3) 学会賞は毎年，学術的業績および技術的業績それぞれ 1 件以内，奨励賞は原則として毎年 2 件以内とする。

改正後 3) 学会賞は毎年，3 件以内，奨励賞は原則として毎年 3 件以内とする。ただし，学会賞については，学術的業績および技術的業績がそれぞれ少なくとも 1 件含まれることとする。

F. 学会賞選考委員会に関する事項

改正前 7) 受賞候補者の選定を行う幹事会に先立ち，委員長は候補業績などの整理を行った上で委員会を招集し，委員会での結論を文書により会長に報告する。

(1) 学会賞については，学術的業績，技術的業績それぞれ 1 件以内を報告する。

(2) 奨励賞については，原則として 2 件以内を報告する。

改正後 7) 受賞候補者の選定を行う幹事会に先立ち，

委員長は候補業績などの整理を行った上で委員会を招集し、委員会での結論を文書により会長に報告する。

- (1) 学会賞については、学術的業績および技術的業績がそれぞれ少なくとも1件含まれる3件以内を報告する。
- (2) 奨励賞については、原則として3件以内を報告する。
- (7) 日本学術会議会員候補者および推薦人の選出に関する内規事項の削除

第20期日本学術会議会員より、日本学術会議は新体制に移行し、会員が次の会員を選ぶこととなった。内規Gは学会より候補者を推薦するための取り決めであることから、内規事項Gの削除が提案され、承認された。

- (8) 郵送による参加申し込みの廃止
次回大会(茨城大会)から講演申し込みをホームページからの入力のみとし、郵送による申し込みを廃止することが提案され、承認された。なお、ホームページから申し込みができなかった時の対策を学会ホームページおよび育種学研究的記事に掲載することとした。
- (9) 講演申し込みに係る UMIN システムの導入について
次回秋季大会(山形大会)より講演申し込みに UMIN (University hospital medical information network) オンライン学術集会演題抄録登録システムを利用することが提案され、承認された。
- (10) 学会講演要旨のスタイル変更について
次回大会(茨城大会)より一般講演の講演要旨、プログラムの様式を現行の「著者、所属、演題」から「演題、著者、所属」に変更することが提案され、承認された。

3. 関連報告

- (1) シンポジウム委員会
次年度秋季大会におけるシンポジウム課題が公募中であることが報告された。
- (2) 植物育種学辞典委員会
執筆者に担当項目数に応じた図書券を贈って学会からの謝辞を呈したことが報告された。
- (3) SABRAO
次期開催予定が紹介された。
- (4) 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
本学会が今年度より加盟している男女共同参画学協会連絡会のシンポジウム(10月6日東京大学)には谷坂隆俊会長と吉田薫委員が出席予定であることが報告された。
- (5) 今回大会の記者レクについて
今大会中に講演される3課題について記者レク(於: 東京大学記者クラブ)を行ったことが報告された。

集会の案内

◇ シンポジウム「ダイズゲノムの解明と活用」 ～日本の食糧資源の充実化を目指して～

本シンポジウムは、全国のダイズ研究者の方々や関連組織の方々にお集まりいただき、ダイズ研究における現状認識を共有し、今後の研究に役立てていただくことを目的に、(独)農業生物資源研究所が主催するものです。大豆は古くから豆腐、味噌、醤油等として加工され、米とともに日本の食料の重要な位置を占めてきました。近年はバイオディーゼルの原材料としても注目されております。ダイズ研究者および関連組織間のさらなる連携を深め、わが国のダイズ研究の一層の発展を期すために、皆様の緊密なネットワーク作りのきっかけにさせていただければ幸いです。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日 時：2007年3月7日(水) 12:45～17:00

場 所：コクヨホール(品川駅港南口徒歩1分)

参加費：無料

参加登録：事前にホームページ(www.daizugenome-sympo.com)よりオンラインでご登録ください。(定員300名)

主 催：独立行政法人農業生物資源研究所

プログラム(予定)：

12:45-12:55 はじめに 農業生物資源研究所理事長

12:55-14:25 講演(発表25分、質疑応答5分) 田畑哲之(かずさDNA研究所) 原田久也(千葉大学) 篠崎一雄(理化学研究所)

14:35-16:05 講演(発表25分、質疑応答5分)

喜多村啓介(北海道大学) 明石良(宮崎大学) 廣塚元彦(不二製油 フードサイエンス研究所)

16:15-16:55 パネルディスカッション

16:55-17:00 閉会の辞

問い合わせ先：ダイズゲノムシンポジウム事務局

FAX: 029-855-0198 E-mail: sec@daizugenome-sympo.com

研究助成公募の案内

◇ (財)タカノ農芸化学研究助成財団 平成 19年度研究助成対象者募集要領

本財団は、農学、特に農芸化学(生物資源等)に関する学術研究を助成し、もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。本年度も、農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し、研究助成金を交付いたします。特に、若手研究者への助成の枠を設け、今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。

1. 研究課題 (1) 穀類並びに豆類の栽培・育種に関する研究 (2) 穀類並びに豆類の品質・成分並びに栄養生理等に関する研究 (3) 穀類並びに豆類の利用及び加工技術に関する研究 (4) 納豆菌等微生物の特性・生成酵素

等に関する研究

2. 研究助成対象者 (1) 大学及び短大の研究者 (大学院生も含む) (2) 国立試験研究機関の研究者 (3) 公立試験研究機関の研究者 (4) その他本財団が適当と認めた研究者
3. 助成金額 一般研究者 1 件 100 万円を 7 件程度, 若手研究者 1 件 50 万円を 6 件程度 (昭和 42 年 4 月 1 日以降に生まれた者)
4. 交付時期 平成 19 年 5 月予定
5. 申請手続き方法 当財団所定の申請用紙に必要事項を記入し, 平成 19 年 3 月 20 日 (必着) までに郵送願います。尚, 申請書用紙は, E-mail にお問合せいただきましたら, 書類を添付して返信いたします。または, 郵送用切手 (140 円) 同封の上, 下記宛にご請求下さい。
6. 申請書請求先及び送付先 〒 311-3411 茨城県小美玉市野田 1542 番地 (財) タカノ農芸化学研究助成財団
TEL: 0299-58-4363, FAX: 0299-58-3847
E-mail: tazaidan@takanofoods.co.jp
7. その他 同一研究課題で, 他の団体等へ応募され, かつ, 本年度重複助成となられた場合には, 助成をできない場合がありますのでご注意下さい。

各賞推薦の案内

◇ 藤原賞受賞候補者募集のお知らせ

趣旨 日本国籍, 且つ日本在住者であり, 現在活躍中で科学技術の発展に卓越した貢献をした科学者を顕彰する対象 自然科学分野に関する基礎科学および応用科学
贈呈 賞状, 賞牌 (金メダル) および副賞 (1,000 万円)
応募締切日 平成 19 年 1 月 31 日必着
主催 財団法人藤原科学財団
参照 URL <http://www.fujizai.or.jp/J-p-jigyo.htm>
問い合わせ先 財団法人藤原科学財団 中央区銀座 3-7-12
TEL: 03-3456-7736

地域活動だより

◇ 東北育種研究集会

東北育種談話会主催の「東北育種研究集会」が 2006 年 8 月 23 日 (水) に山形大学農学部を会場に開催されました。東北育種談話会は 10 年以上休業状態でありましたが, 再開すべきという東北地区の幹事及び会員の皆様の熱い思いがあって, 現場の育種に携わり優れた研究をなさっている 2 名の方に講演を行っていただき, また次代を担う学生さんにも積極的にご参加頂けるようポスターを募集し発表していただくことにしました。「東北育種研究集会」のご案内は, 東北地区の 200 名の会員に発送し, 87 名の会員から出欠の返事があり, 約 40 名が参加しました。2 題の講演題目及び概要, 及び 14 題のポスターの題目等は以下のようです。

【講演】

①「サクランボ品種「紅秀峰」の育種」西村幸一氏 (山形県農業総合研究センター)

明治の初期にサクランボがアメリカから導入されてから, 山形県における品種改良の流れ, 大玉・高糖度で着色が良く評価の高い「紅秀峰」の育種を中心に, 農林水産省のアウトウ育種指定試験事業として進められている品種改良の現状について講演がなされた。なお, 「紅秀峰」の栽培面積は, 現在 202ha (山形県の栽培面積の 7.1%) と少ないが年々増加しているという。

②「古川農試におけるイネ育種の成果と現状—耐冷性といもち病抵抗性向上を中心に—」永野邦明氏 (宮城県古川農業試験場)

古川農試は農林水産省の水稲育種指定試験地として, 「東北中南部向け極良食味, 耐冷性, いもち病抵抗性品種の育成」を目標として水稲の品種開発を行ってきており, これまでに「ササニシキ」, 「ひとめぼれ」等の品種を含め合計 38 品種を育成してきていること。最近の成果としての, 高精度耐冷性検定方法の確立と耐冷・極良食味品種の育成, いもち病真性抵抗性を利用した多系品種 (マルチライン) である「ササニシキ BL」の開発等を中心に, 耐冷性関連 DNA マーカーやいもち病圃場抵抗性品種の開発等も含めて講演が行われた。

【ポスター発表】

P1「エダマメ中の γ -アミノ酪酸 (GABA) 含量の品種間差異」竹屋佳奈子・阿部利徳/P2「山形県の在来エダマメダイズ, 白山ダダチャの β -コングリニン β サブユニットの変異」野間広太郎・泉館聡・加納睦美・阿部利徳/P3「トランスジェニックアラビドプシスをを用いたダイズ種皮着色抑制遺伝子 (I 遺伝子) の組織発現に関する研究」大久保喜光・葛西厚史・千田峰生/P4「Brassica 属の種間不和合性の解析とマッピングのための DNA マーカー作成」石丸洋次・北柴大泰・西尾剛/P5「日本型水稲間における SNPs 検出とその同定」前田寛明・白澤健太・岸谷幸枝・西尾剛/P6「イネの産地判別技術開発のためのサイレント突然変異体の選抜」高橋由信・佐藤豊・白澤健太・西村実・西尾剛/P7「リンドウにおける花色識別 DNA マーカーの開発」柿崎裕子・中塚貴司・西原昌宏・阿部善子・山村三郎/P8「イネ遺伝子 *Ur1* (*Undulated rachis-1*) の分子地図上へのマッピングと間接選抜するための DNA マーカーの特定」今井克則・千葉あや乃・千葉悠貴・石川隆/P9「Me トマトを台木にしたジャガイモ穂木葉の形質転換」工藤久幸・千田峰生・石川隆二・赤田辰治・原田竹雄/P10「岩手県北部で収集されたヒエ系統の農業特性に基づく評価と数量的分類」鎌田拓也・佐川了・高畑義人・星野次汪/P11「シロイヌナズナ胚のクチクラ形成における *GASSHO1,2* 遺伝子の協調的機能」津和本亮・福岡浩之・高畑義人/P12「イネのカドミウム蓄積に関する染色体領域の解析」出原慧・梨田智子・佐藤秀樹・服部浩之・茅野充男・高橋秀和・森宏一・

赤木宏守/P13「Brassica napus とその両親種 (B. oleacea, B. rapa) との間の交雑和合性の差異の機構解析」児玉悠介・玉田深平・横井修司・高畑義人/P14「Cuphea leptopoda の中鎖脂肪酸合成関与遺伝子導入によるアブラナ科植物の脂肪酸組成の改変」西田真人・柿崎裕子・塚本知玄・高畑義人。

最初の講演①と次の講演②の間にポスター発表が行われた。ポスター発表時には特産のダダチャマメの試食があり、ポスターの前で熱心な議論が行われた。ポスター発表は岩手大4、東北大3、弘前大3、山形大2、秋田県立大1及び岩手生物工学研究センター1の内訳で、大学院生の発表が多かった。この研究集会に関しては地元の新聞「荘内日報」が8月25日の第1面で大きく取り上げ、県の試験研究機関による現場での育種研究と大学等での基礎的な遺伝子レベルでの研究との融合の意義を書いてくれました。しかし、今回の「東北育種研究集会」は長く休業状態であったこともあり、40名程度の参加にとどまり、東北の学会員に十分に浸透しなかったのではないかとこの疑問が残りました。また、全体の参加者のうち、各県の試験研究機関の参加者が少なかったこと。ポスター発表でのディスカッションの時間が40分と短かったことなどが反省点として上げられます。今回、曲がりなりにも「東北育種研究集会」として再スタートしたわけですが、これから本集会を東北の育種関係者の率直な研究交流の場にし、さらに充実させていくことが重要であると思われます。なお、「東北育種研究集会」の講演及びポスターの要旨集は10部ほど残部があります。もし、ご希望の方がおられましたら、山形大の阿部までご連絡下さい。

訃報

◇ 名誉会員 細田友雄

本年9月11日に細田友雄先生がご逝去されましたのでお知らせいたします。先生の追悼記事を次号に掲載いたします。

日本育種学会会員異動(2006.7.21 ~ 2006.10.20)

◇ 普通会员入会：木下雅文(北海道)、川崎光代(岩手)、朴鍾璘(宮城)、朝野尚樹、井澤毅、サメリモハンマッド(茨城)、風間裕介(埼玉)、杉山立志(富山)

◇ 学生会員入会：王紹東、佐藤洋、常盤明子、與那覇至(北海道)、佐々木卓、杉村哲(宮城)、NAYAR Nasrin、LAPITAN C. Victoria(山形)、新井美耶子、江口真樹、小林祥子、遠山宏和、宮澤美紗子(茨城)、森啓昭(千葉)、解麗娜、張欣欣、富本洋平、若松快朗(東京)、山本薫(新潟)、Shanta Karki、西川由美(京都)、赤坂真由美、木村衣里、和田直樹(大阪)、中村準(兵庫)、高橋靖幸(奈良)、水田大輝(島根)、有岡輝明、波越啓太(鹿児島)

◇ 外国会員入会：Penko Spetsov Petrov(ブルガリア)

住所変更等

◇ 普通会员：関口博史(北海道)、高館正男(青森)、大川安信、葛谷真輝、小関麻衣子、晴山聖一、前田英郎(茨城)、金會澤(千葉)、荒木良一、一色正之、岩尾純子、川浦香奈子(神奈川)、加藤成二(山梨)、山口貴大(愛知)、新田みゆき(京都)、島津樹一(奈良)、田村尚之(岡山)、荒巻功(広島)、小牧有三(鹿児島)

◇ 学生会員：原尚資(茨城)、角井宏行(千葉)、長谷謙一(東京)、坂田勲(岐阜)

◇ 団体会員：鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部作物研究室(鹿児島)

◇ 外国会員：Masanori Inagaki(アラブ首長国連邦)、MD. Asad ud-doullah(バングラデシュ)